令和6年度　学校関係者評価　　【学校教育目標】思いやりをもち、自ら考え、意欲的に取り組む子の育成　【めざす子ども像】安心して過ごせる学校「毎日が楽しく、明日が待たれる学校」

評価項目	本年度の教育活動の目標と 評価のための具体的な指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
(1)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり	「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」を実現する授業づくり 【目標】学び合いのある授業づくりに取り組む。学びを定着させるよう振り返りの時間の確保と取り組み方法の確立に努める。 【指標】・全員が、公開授業または全体提案授業を行う。 ・自主研修会を各学期に1回以上開催する。 ・職員アンケート２において、肯定的な回答が８５％以上。 （「各授業で「めあて」を明確に示し、「振り返り」活動を行っている。」） ・児童アンケート１、２において肯定的回答が８０％以上。 （１　「授業で、友達の考えを聴くことは楽しいですか。」） （２　「授業で、自分の考えを話したり発表したりしていますか。」） ・算数アンケート（２）において肯定的回答が８０％以上 （「算数の学習で最初の授業ではわからない問題も最後の授業ではわかるようになっていますか。」） ・算数アンケート（３）においてわかるようになった理由として「友達の説明を聞くから」を選ぶ児童が４月より１２月のほうが伸びること。 ・全体研の反省会で、学び合いの様子について毎回検討を行う。	B	○全体提案授業3クラス、それ以外は1月末をもって全教職員の公開授業が終了する。各自が学び合いの充実について考え、公開し、取り組みの交流や意見交換を行うことができた。振り返りについても視点を提示して子ども達に書かせたり、反省会で子どもの書いた振り返りを検討したりできた。また、職員アンケート２において８５％の教員が肯定的な回答をしている。 ○自主研修会を学期に1回以上開催し、各自が得意なことや取り組んでいることを広め合いながら互いの取り組みを振り返り、さらに相談し合うような場づくりができた。今後に生かす授業技術や教材ネタの交流、教職員同士の学び合いを行うことができた。 ▲児童アンケートを見ると、１の回答で８９％が友達の考えを聞くことは楽しいと答えている。しかし２の回答をみると７０％の児童しか自分の考えを伝えたり発表したりしていると回答していない。聞くだけの立場になっている児童、ノートに自分の考えを書いて満足している児童、ペアやグループで伝える児童などが一定数いると思われる。自分の考えをもっているか、ペアやグループの中で伝えているかを大切にみていきたい。 ○算数アンケートでは、（２）の設問で９０％以上の児童がわからない問題がわかるようになっていると回答し、（３）では、「友達の説明を聞くから」わかるようになっていると回答している児童が全体として12月の方が増えている。友達同士での学び合いが子どもの実感を伴いながら進められていると考えられる。 ▲「わかる」ようになる理由には学年による差がみられる。「できる」ようになるためにはある程度習熟の時間も大切であると思われるが、友達と考え学び合いながら「わかる」喜びを実感できるような課題設定や授業展開を常に考えていく必要がある。全体研で学んだことを普段の授業に生かしていくことを心がけていきたい。	・90％以上の児童が「最後の授業でわかるようになる」と感じていることが素晴らしい。確かに定着という課題はあるが、わかるということが学習の意欲となっていくのではないかと感じる。 ・目標に向けて各職員が取り組んでおり、児童の理解度を確認しながら取り組みが進められていると感じる。 ・全体提案授業、公開授業について全職員が実施できたことはとてもよかった。 ・友達と学び合うことはとても大切なことだと思う。教える側は、相手が分かるような説明のスキルの向上、教えられる側は分かろうとする努力が養われ学力向上につながると思う。 ・児童アンケート２の結果で、肯定的回答をしている児童の割合が70％で目標に達していないが、肯定的回答をしていない児童の状況に合わせて適切な声かけや授業の工夫をしていただきたい。 ・児童アンケート１・２に関して「友達の考えを聴くことは楽しい」が89％なのでとても良く思えるが、逆に言うと、自分の考えや思いがうまく伝えれずにいる子も多くいるのではないかと思う。内気で引っ込み思案な子も沢山いると思うので、そんな子たちにも目を向けたよりよい環境づくりが大切ではないかと思う。 ・1年生は先生の話ですら聞くのが難しい状況であり、まずは人の話をきちんと聞けるようにするのが大切ではないでしょうか。	・振り返りへの取り組みで、例文を示す、書く視点すのと同時に、子どもの実態に合わせて□抜きの言し言葉を埋めるなどの、丁寧な取り組みを行っていい。 ・グループ、ペアといった少人数の中で話したり、を伝える練習をしていく。こういった経験を積み重ことで、自信につなげたい。 ・授業の中で声を出す練習も大切にしたい。まず読をはきはきする→自分の考えをノートに書く→の中で発表する、話す→多くの人数、学級全体のす、といった経験を普段の授業の中で意識していく ・もちろん聞くことは、大切。学級の掲示に話す（傾聴）があるので、常に意識していく。互いの受け止めようとする気持ちの育成は、人権教育にされたものになる。時には、聴写といった取り組段の授業の中に取り入れるのも一案。
	教育ＩＣＴの日常化 【目標】主体的・対話的で深い学びにつながるICT機器の活用 【指標】 ①職員アンケート３において、肯定的な回答が８０％以上。 （「あなたは児童の理解が深まるように、授業でICT機器を有効活用している。」） ②４～６年生の算数アンケートにおいて、肯定的な回答が８０％以上。 （「ICT機器を使うと、算数の学習に役立つと感じますか？」） ③ICT長が、オクリンクプラスを活用した算数の授業実践を１学期に実施し、他の職員が２学期以降から段階的に使用できるようにする。	A	◎①とても当てはまる５７．１％　当てはまる３３．３％　**肯定的回答　９０．４％** ◎②感じる＋時々感じる＝肯定的な回答 （自分の考えが持ちやすくなるから。/友達の考えや、自分の考えがわかりやすくなるから。） ４年生５１％＋４５．１％＝９６．１％（３２．６％/３０．４％） ５年生６０．５％＋３９．５％＝１００％(６３．２％/６５．８％) ６年生４５％＋５０％＝９５％(６２．２％/４０．５％) ◎③複線型の授業、子どもが学び方を選択×ICTで実践できていた。	・年々ＩＣＴを活用した授業の質が向上しているように思う。児童も使いこなしており、今では欠くことのできないツールだと思う。 ・ＩＣＴ機器に対して、慣れながらスムーズに習得できるように活用されていると感じる。 ・4年生ぐらいから算数において大きく格差が生まれてくる時期なので、得意・不得意もあるが、少しでも格差が生まれないよう継続的に色々な取り組みをお願いしたい。	①タイピングの能力を底上げする必要がある。（長みなどで課題として、日々の授業で） ②読書活動の妨げをしないように、バランスよくI育を進めていく。例：課題終了後→「タイピング」「読書」をバランスよく取り込んでいく。 ③算数の習熟度格差について：ICTを用いて、 ・指導の個別化(児童の丁寧な見取りと声掛け) ・複線型授業(児童が学び方の選択) ・デジタル教科書活用(動画視聴、スクリーンショ→オクリンクプラスへの貼り付け)
	図書館教育の充実 【目標】豊かな心を育む読書活動の推進 【指標】・図書委員を中心に、図書室へ来る児童数が増えるような楽しい活動を学期に１回程度計画し、実施する。 ・教師による『お話プレゼント』の時間を学期に１回設ける。 ・朝学習では読み聞かせボランティアを活用し、巡回指導員は学年で年に１回は学習につながるような活動で活用する。 ・クラス毎の貸出数の状況を定期的に（月毎に）掲示し、全校に伝える。 ・平均年間貸出数を低学年は30冊以上、高学年は20冊以上とする。 ・児童アンケート「３　本を読むことは好きですか。」において、肯定的な回答が70％以上とする。	B	○今年度の貸し出し冊数は、昨年度に比べ、11月末現在で約１割程度多くなっている。子ども達が図書室に足を運び、本を手にとる回数が少しずつ増えている様子がうかがえる。 ○図書委員会では、１学期に『としょかんまつり　夏！』を、２学期に『としょかんまつり　秋！』を実施し、大型絵本や紙芝居などの読み聞かせを行った。スタンプカードや、プレゼント等の実施で毎回60～70名の児童が来室した。 ○『わたしの”おすすめ本”』として全校児童が、本を紹介する掲示物を作成し、それらの本を探して読んだらシールを貼る取組を実施した。関心をもって本を探す姿が見られ、貸出数増加につながった。 ○教師による「お話プレゼント」を、毎学期１回ずつ実施し、朝の読み聞かせでは、各担任やボランティアによる「お話プレゼント」を実施し、多くの本を知る機会を設けた。 ○巡回指導員を活用し、希望学年でブックトークを行ったり、テーマに沿ったコーナーを定期的に図書室に設置したりすることができた。 ○平均年間貸出数は、11月末現在で低学年は60冊以上、高学年は40冊以上となっている。 ▲児童アンケート3において、昨年度より肯定的回答が約8%増加し、約71%となったが、目標の80%には及ばなかった。子どもたちのICTの活用能力が向上し、調べ学習等をインターネットで行うことが多く、各担任も意識しながら児童に勧める場を設けているが、やはり図書室という場、さらに書籍を活用する機会はなかなか増えない。図書委員会の取り組みなどで図書室の来室数は増えているものの、読書数増加の根本的な解決には至らない。国語科や総合的な学習等の学習での活用方法等を引き続き協議していく必要がある。	・ICTの活用が増え図書館離れが増えている中、図書館まつり・読み聞かせ・スタンプカード・プレゼント等の実施による読書推進活動がなされており、貸し出し数が増えている。家庭では新聞離れ、ネット視聴が多く、学校側の努力はとても重要でたいへんありがたい。 ・図書室の利用や読書の推進のためにいろいろなイベントを開催したり、読み聞かせを実施したりなどの取り組みを行うことについては、児童の興味・関心につながり、成果が上がったと考えられ評価できる。引き続き活動にとりくんでもらいたい。 ・6年生が1年生に本の読み聞かせをする活動はとてもすばらしいなと思いました。 ・本を読むことはともて良い事とわかっていても、なかなか手が出ません。学校でいろいろな取り組みを行っていただき感謝します。このまま続けてほしい。 ・わたしの「おすすめの本」として、読んだらシールを貼るという取り組みはとても良かった。シールがたくさん貼られていると、それを見た児童が「おもしろそう」と感じて、さらに興味がひかれている様子だった。 ・「本を読むことが好き」という数値が目標に達することができなかったとはいえ、7割を超えるということが素晴らしい。一方、親がとらえる子の本が好きは、子どもよりも下回るということは、家庭ではなく学校で読んでいるのかもしれない。学校で読書の時間を確保されている先生方の努力の賜かもしれない。 ・休み時間には、外に遊びに行く児童と図書館に行く児童に分かれ、本が嫌いではないが、外遊びを優先してしまうように感じる。読書量は貸し出し数でしか計れないと思うが、実質的な読書量増加につながる取り組みができるとよい。 ・亀山市の図書館を視察した際、充実した施設に入りカルチャーショックをうけた。遊び心で入館でき、ゲーム、読書、学習できる。リラックスできわくわくする場所だった。学校の図書館は役割が違うと思うが、イメージを変える工夫を子どもたちから提案してもらう等のイノベーションが必要ではないかと思う。 ・「本」を身近に感じられる子どもを育成するための工夫を期待したい。 ・クラス毎の貸出数の状況表示は利用促進のためにいいことではあるが、実際に本を借りるだけではなく、中身を読んでいるのか調査しにくいのではないか。 ・調べ学習は手軽さや情報の多さでみるとインターネットの方が効率的であるが、それぞれ学年や内容に応じた利点があると思うので、その辺りを考慮していく必要があると思う。 ・児童アンケート3の指標において70%となっているので、71%であれば、〇ではないのか？	・今後も、図書委員会が中心となる学校全体での取組級担任からの児童への働きかけを続け、まずは児童が室へ足を運ぶ機会を確保、維持していく。 ・教科学習において、知識を広げたり調べが必要だっする内容、単元では、ICR活用に併せて書籍利用も取り ていくようにする。 ・学級文庫とは別に、学級担任が児童に読ませたい本習に関わる本など複数冊をまとめて”クラス”として り、教室内にて管理し、児童が自由に手に取れるようる。（例えば、月ごとに借り換え等） ・学校での取組と併せて家庭での読書時間増加の必要どを発信していく。（HP閲覧による図書情報収集や、指導員等の協力を得ながら、読み聞かせに適した本や者の関心事に寄り添った本の紹介など） ・貸出数＝読書数とならないことは承知しているが、に読んでいるかどうかを一人一人、1冊ずつ確かめる困難なので、図書からの取組イベントの中の中に、読いないと書けない”本紹介”などを必ず取り入れていうにする。月々の貸出数掲示は、励みとなっている児いるので続けていく。 ・図書室内のイメージ工夫については、巡回指導員等討しながら必要な、可能な範囲で進めていく。
(2)互いを尊重し、安心できる人間関係づくり	人権を尊重する態度の育成 【目標】自尊感情を高め相手のことを思いやれる心の育成 【指標】毎月「人権の日」を設定し、人権について自分を見つめる機会を設ける。 人権の授業を各クラスで月1回以上行う 児童アンケート「4 困っている仲間を助けることができているか」「5 いじめはどんな理由があってもしてはいけないと思うか」「6 いじめを見たり聞いたりしたときやめるように言ったり誰かに伝えたりできるか」「9 周りの人の気持ちを考えて行動できているか」「13 自分にはよいところがあると思うか」で肯定的な回答85%以上。 教職員の人権意識を高めるための研修を行う。年間3回以上。	B	○人権の日には、児童たちにピンクシャツデーを意識させるための声掛けをしたり、掲示物を作成し掲示したりした。また掲示の中で「ぽかぽか言葉を集めよう。」を行い、子どもたちから「自分が温かい気持ちになった言葉や行動」を集めた。 ○児童アンケートでは4はR5年度93.6%→R6年度98.4%（前年比　＋4.8%）、5はR5年度96.8%→R6年度94.5%（前年比－2.3%）、6はR5年度92.8%→R6年度93%（前年比　＋0.2%）、9はR5年度87.2%→R6年度95.3%（前年比　＋8.1%）、13はR5年度75.2%→R6年度82%（前年比　＋6.8%）となった。4、5、6、9の項目では85%以上の基準値を達成した。また「9　周りの人の気持ちを考えて行動できているか。」では8.1%向上が見られた。これは、4年生、6年生の授業実践で児童の実態を振り返りながら、実践を行ったことが関係しているのではないかと考えられる。 ▲児童アンケート「13自分にはよいところがあると思うか。」に関しては85%以上の基準には達することができなかった。そのために３学期、児童会主催の「良いところみつけ」を行い、放送や集会の場を利用しながら、周知を図っていく。	・いじめを防止するための対策としてよいと思う。 ・児童アンケートの多くの項目において前年比が＋になっており、児童の人権意識の向上が確認できる。人権の日や掲示物、授業などの成果だと考える。 ・人権尊重をより意識させるには、自分の思いを言葉にさせるのも一つの方法だと思う。そこで年に1～2回、子どもたちが人権標語に取り組んで意識づけをさせてみてはどうだろうか。 ・アンケートの結果を子どもたちにも共有して「自分の良いところ、友だちのよいところ」をテーマに話し合いなどを行う場を作ってはどうか。 ・自己肯定感について肯定的回答をしていない児童には、理想が高かったり謙遜していたりということもあると思うので、良いところを掘り下げて、考え方や判断基準を話し合わせるなどの活動を通して自己の成長を認められるようになるといいと考える。 ・「よいところがあると思うか。」と質問すると、思いつかないためか「ない」と答える児童もいると思う。具体例（「友達が泣いていたら声をかける」「ゴミをひろう」「進んでお手伝いができる」など）を挙げて、〇をつけさせるなど自分の良いところを気づかせてあげる方法などを取り入れてはどうか。 ・人権に対する高い意識をもてる子どもになるように活動していると感じる。子ども達が自分の良いところを自覚できるように『『私は〇〇が良いところです』といってもらいました」と発表させると自覚につながるのではないか。	子ども同士でいいところを見つけ合う活動を行っころ、いいところを見つけたり、見つけてもらっることで、自分を改めて捉え直すよい機会になった、6年生では、人権フォーラムの経験から劇を行全校児童に見てもらうことができた。来年度も、同士で、自分の思いを伝え合える機会を作っていいい。 アンケート内容については、内容を検討していがある。
	いじめのない学校づくり 【指標】組織的な対応と情報の共有を徹底する。児童アンケート「5いじめはどんな理由があってもしてはいけない」と考える児童100%。 児童アンケート「6いじめを見たり聞いたりした時に、やめるように言ったり、誰かに伝えたりすることができますか」と考える児童が90%以上。	B	○学期に一回いじめアンケートを実施し、児童の実態を把握することに努め、気になる児童には迅速に対応した。スクールライフサポーターと連携し、家庭訪問や学校での見守り等、不登校（傾向）児童の対応にもあたった。今年度発覚したいじめについては、素早い対応を心がけ、職員との共通理解を図った。月に1度「児童の様子」を共有する時間を設け、全職員で情報共有を行い、全職員で児童を見ていくよう現状把握を行った。 ○児童アンケート5は、R5年度96.8%→R6年度94.5（前年比　－2.3%）、児童アンケート6は、R5年度92.8%→R6年度93.0（前年比　＋0.2%）であった。児童アンケート5については、下がる形になった。全職員日々指導をしているため、原因についてはわからないが、今後もいじめはいかなる理由があったとしてもやってはいけないということを日常的に機会をとらえ指導していきたい。いじめの未然防止に向けた取り組みはもちろんのこと、いじめの早期発見、いじめ発覚後の事実確認、及び全校で統一した指導方針の決定をすばやく行う体制のもと、複数の職員での対応を今後も行っていく。	・学校が認知したいじめについて、教員の気づきなのか、本人の訴えなのか、友だちの気づきなのか？友だちの気づきで先生に相談してきたとすれば、とても力がついていると言える。 ・子ども達の意識は、総論では「いじめ→×」だとわかっていても、各論では「いじめ→△」と考えてしまう時もあるのではないだろうか。特に高学年になってくると、いじめられる側に理由があると考えるようになることもあり、実際の経験も影響しているのではないかと思う。いじめはダメだとわかっていても、我慢するしかないことへの憤りのようなものをどうすればよいか、についても指導内容に入れてはどうか。 ・目標値100%は理想の目標であるが、アンケートの内容はどうなっているのか。 ・いじめはどの世代でもあるので、めんどくらさがらず、真摯に向き合い立ち向かう姿勢が大事だと思う。子どもたちの少しの変化に気づけるかどうかだと思うので、今後も注意深く向き合っていただきたい。 ・「いじめはしてはいけない」と認識しているが、ネット上のやりとりは把握できない。学校側が関与できないのはもちろんのこと、親も知らない世界での微妙な関係が不登校や事件に至る場合も出てくる。教職員研修、保護者啓発、自己肯定感の向上教育など現状の指標に添った教育を続けてほしい。	・日ごろから子どもたちとよく会話をし、些細なも気づいていけるよう意識して過ごしていきたい。た、ネット上でのやりとりや相手の姿や表情が見やりとりが増えていることもあり、学校だけでは護者の力が大切になると考える。そのため、学校ちろんのこと、家庭への啓発を行い、家庭でもし子どもたちを見てもらえるようお願いしていきたい
(3)一人ひとりに応じた指導・支援の体制づくり	組織的・継続的な個に応じた特別支援教育の工夫 【目標】個の理解を深め、それに応じた支援の方向性や支援方法を共有する。 【指標】・該当児童の支援計画、指導計画作成を100%とする。 ・支援が必要と思われる児童の情報交流会を月に１回実施する ・必要に応じて校内支援委員会や支援会議、ケース会議を開催する。 ・外部機関と連携し、また、講師を招くなどして具体的な支援方法を還流するとともに研修会を行う。	A	○前年度からの引継ぎ事項とともに担任が観察した様子等を保護者に確認のもと、前期の到達目標や手立て等の支援計画や指導計画を作成した。後期はそれらを振り返りながら更なる手立てを考え、実施してきた。 ○支援が必要と思われる児童の様子等を各担任から報告し、全職員で情報共有する時間を定期的に設定することで、児童に対して必要な場面で適切かつきめ細かな対応を行うことができた。 ○児童の様子や、保護者とのやりとりなどを通して、必要と考えられるときにすみやかに支援委員会を開き、ケース会議や保護者との支援会議を開催してきた。特に年度初め、学期初め、長期休業の前、年度末には必ず実施し支援の方向性や方法を検討できた。 ○外部関係機関からの可能な限り情報収集しそれをもとに、支援方法を検討する機会をもてた。	・必要に応じた個別支援がなされ、保護者への丁寧な対応、全職員の情報共有が充実している。不登校への対応も全職員や保護者と共有し、安心して中学校に引き継がれていくようお願いしたい。 ・保護者、外部機関と連携し、全校体制で取り組まれていると感じる。 ・とてもよい取り組みだと思うので、今後も継続していただきたい。 ・保護者からのアンケート回答を得るなど、職員の努力が感じられる。一人ひとりの個性を尊重した教育理念を続けてもらいたい。 ・一人ひとりが伸び伸びと生活しており、努力している姿が多く見られた。支援学級での全体授業（活動）などでは、与えられた課題に一生懸命取り組みつつ、協調性、まとまりのある活動ができたように思う。	・支援学級籍の児童をはじめ、協力学級で支援が思われる児童の困り感を担任が中心となって把握とを引き続き大事にしていく。その際に、保護者かりと連絡をとりながら対応策を練り、進めていく ・今後も児童一人ひとりの情報を丁寧に交流し、員が共有していく。担任以外の教職員からの関わつなげていき、教員全員の目で児童を見守っていく
(4)児童生徒理解を基盤とした生徒指導	組織的で統一感をもった生徒指導 【目標】統一感をもった指導がなされるよう、情報共有を徹底する。 【指標】日ごろから、同じ学年の教員で情報共有を行う。 問題事象があった場合には、学年・学年部・担当者・関係者・管理職ですばやく情報共有を行う。 職員アンケート「5 今年度の生活指導の重点『あいさつ』『トイレのスリッパをそろえる』『時間いっぱい掃除をする』について意識して取り組み、子どもたちにその意義を考えさせて、指導している」、「6学校は問題行動が発生したとき、関係者と情報共有をして迅速に対応・指導し、解決に取んでいる」について意識するとと、子どもたちにその意義を考えさせて取り組む。肯定的な回答が85%以上。	A	○教職員アンケートで、すべての項目で85%を達成することができていた。 　アンケート5、6どちらも肯定的な回答が100%だった。アンケート5については、長期休みあけに、生活指導の先生から、また管理職から必ず話をしている。今後も生活指導の重点である『あいさつ』『トイレのスリッパをそろえる』『時間いっぱい掃除をする』について意識して取り組むよう、全職員で声をかけていきたい。また、アンケート6については、問題が起こった際、できるだけ迅速に聞き取りを行い、家庭への連絡も行うようにしている。そして、管理職や生活指導の担当とも、相談を行い、ともに解決していくよう動いている。教員が素早く問題を共有し、行動することで、問題行動の予防につながるため、これからも意識して取り組んでいく必要がある。	・学校全体、教室、トイレを見てもきれいにされているので、統一感のある指導ができていると思う。 ・学校訪問をした時、きちんと挨拶をしていただいている。またトイレもスリッパがきちんと揃えられている。 ・教員同士で統一感のある指導がなされていると感じる。そういう体制をとれることが、先生たちの安心と自信につながると感じる。 ・良い指導がされており、子ども達も実践できていると感じる。 ・挨拶運動は地域のあたたかい見守りが大切だと思うので、今後も続けてきたい。 ・夏のアイスネックや冬の防寒グッズ（イヤーマフ、手袋、帽子など）などについて、担任の先生によって指導にバラつきがあるように感じた。	・自分からあいさつをする・あいさつをかえす ・トイレのスリッパをそろえる ・時間いっぱいそうじをする。 この３点の指導を継続していく。 　問題行動の情報共有については、迅速に行う。きまりについては、再度統一した指導ができるよ認する。
	決まりを守り、人の気持ちを考えながら過ごすことができる学校 【目標】人の気持ちを考えながら行動することができる子どもの育成 【指標】児童・保護者アンケートにおいて、7「自分からあいさつができる」、8「時間を守る行動を意識している」、9「人の気持ちを考えて行動することができる」割合が85%以上。	A	○児童アンケート7、8、9全ての項目で、85%を達成することができた。 7「自分からあいさつができる」R5年度86.4%→R6年度95.3%（前年比　＋8.9%） 8「時間を守る行動を意識している」R5年度84.8%→R6年度95.3%（前年比　＋10.5%） 9「人の気持ちを考えて行動することができる」R5年度87.2%→R6年度95.3%（前年比　＋8.1%） 今年度は、すべての項目が目標の85%よりも10ポイント以上、上回る結果となった。どの項目も、全職員で同じ方向を向いて、指導した成果と言える。あいさつ運動の様子を見ていても、前年よりもあいさつができる児童は増えたように思われる。しかし、あいさつができていない児童も多くいる。そのため、あいさつの大切さを再度伝えて、あいさつをするのが当たり前、そのような認識が生まれるように、全職員で指導に当たりたい。さらに、学校の中はもちろんのこと、学校外でも時間を守って行動することの大切さを意識付けしていく必要があると考える。7，8，9のどの項目も、人に対して自分がどのような行動がとれるのか。考えられることであるため、これからも声をかけていける職員集団でいたい。	・良い指導ができており、子ども達も実践できていると感じる。 ・自分から挨拶できる児童もたくさんいて、とても素晴らしいと思う。あとは、学校への訪問者やよく知らない先生、さらには児童同士でもすれちがった時などにあいさつができるようになると、もっと活気のある学校になると思う。 ・クラステーマを掲げるのも一案だと思う。自身が小学４年生の時、担任の先生が「思いやりのある心を」を信念に掲げていたが、それが今でも信念になっている。	・決まりを守り、人の気持ちを考えながら行動すができるようになるために、人との関わりを通しいことや悪いことを学んでいく経験を増やしたい。ために、まずは、人とのかかわりの基本となるあを中心に据えて、各学年で出会い学習や人権教育教育を大切にして、子どもたちの心を育てていき ・時間を守る行動については、多くの児童が意識いる。そのため、今後は「チャイムで行動する」「チャイムで授業が始まる」という部分へと、スアップしていけるよう、声をかけていく。
(5)安全で安心な学びの場づくり	安全教育 【目標】主体的に安全を守ろうとする子どもの育成 【指標】自分の身は自分で守ることを意識した避難訓練を年3回実施する。児童アンケート11「安全な学校生活を過ごすために、自分で工夫をしたり、訓練に積極的に取り組んだりしますか。」肯定的回答の児童の割合が90%以上。	A	○前年度と比べて，地震や火事，洪水などの災害に備え，家庭で話し合ったり，防災カルテを確認する児童の割合は，昨年度よりふえた。。R5:61.5%→R6:77.3%（児童アンケート）。避難訓練後，各学級担任からの指導が丁寧に行われていたこと，避難訓練実施毎に，災害時に備えて家庭で話し合いをするよう伝えていたことが児童の防災意識を高めることにつながった。 ○安全な学校生活を過ごすために，自分で工夫をしたり，訓練に積極的に取り組んだりする児童の割合が91.4%程度と，年度当初の指標である90%を達成した。各学級で担任の指示に従って避難をする設定で行うだけでなく，児童が自分で考えながら行動できる避難訓練に取り組む機会を取り入れるとともに，防災意識をさらに高める手立てを工夫していく必要がある。	・児童に事前予告なしの避難訓練でも、一人ひとりがきちんと対応できておりとても素晴らしい。日頃の意識が大切だと思うので、様々な機会を通じて、これからも訓練などに取り組んでもらいたい。 ・「自分で考える」ことを大切にした防災教育を進めていると感じた。 ・避難訓練３回はとてもよいと思う。避難場所、ルートの再確認をしてもらいたいし、また大人側も再確認をしていきたい。 ・学校～家庭の両面での指導ができており、保護者を巻き込んだ訓練も継続してもらいたい。 ・令和５年度と比べ、令和６年度の14.2%増はとてもよいと考える。	・避難訓練時での放送やJアラートのサイレンに合て、子どもたちは素早く行動できるようになった。 ・今後も定期的に避難訓練等を実施し，子どもた分の命を自分で守る方法を考え，着実に避難行動をつけてられるよう日頃から指導していく必要があ ・防災ノート等を活用しながら、具体的な場面をイジし、話し合い活動を取り入れながら、防災意識を図っていき，家庭にも啓発していきたいと思う。
	保護者・地域と連携した安全安心対策 【目標】地域との連携体制の構築 【指標】保護者、学校運営協議会、まちづくり協議会、自治会等、地域へ学校からの情報をメール配信等で発信して情報共有を行ったり、協力の依頼を行ったりする。	A	○年度はじめに地域の見守りボランティアの方にメール登録を依頼し、毎日の下校時刻をメール配信してお知らせしている。 ○安全安心パトロール隊の方との情報交換から、児童の安全な登下校につながっている。 ・これからも地域の方々との情報交換を大事にする中で、安全・安心な学び場づくりに努めていきたい。	・地域と充分連携されていると感じる。 ・地域を巻き込んだ良い活動ができている。 ・現在の活動は良いことだと思う。 ・地域の情報発信はとても有効だと思う。 ・一昨年のサル騒動もあり、子どもを守る家の見直しが必要かと思う。 ※（余談だが）地区まちづくり協議会の運営会議の中で、加佐登小学校の忠魂碑の撤去についての意見があった。数年前に撤去する話になっていたが、市の予算がつかず放置されており危険であるとのこと。また、先日小学校周辺の通学路について道路溝側のふたの設定など安全対策の要望書が高塚町自治会から提出された。地域が熱心に動いてくれていて心強く、またありがたいと感じる。	・今後も、児童の安全を確保するために、見守りしていただけるよう継続して地域へ働きかけていた、子どもを守る家についても引き続きご協力いるよう働きかけていく。
(6)学校運営協議会を中心としたコミュニティ・スクールの推進	学校運営協議会での協議に基づく改善 【目標】協議内容の職員・保護者・地域への発信と具体的な取組の共有 【指標】学校運営協議会各回で話し合われた内容を職員にも周知し、「学校運営協議会だより」を学校内外に発行する。 職員への周知率100%、保護者への周知率65%以上とする。	B	○学校の環境面など学校運営協議会で出された意見をもとに、教育環境を整えるなど改善に生かすことができた。 ▲学校運営協議会やその活動の周知率　R5：58.4%→R6：62.4%（昨年度比＋4%）、教職員は100% ・学校運営協議会開催後、「学校だより」の中で実施したことを保護者にお知らせするとともに、「学校運営協議会だより」を発行し協議会での熟議の内容のお知らせをしている。「学校だより」「学校運営協議会だより」とも保護者へのメール配信だけでなく、地域への回覧も行っている。	・少しずつだが認知されてきており良いと思う。引き続き「学校だより」「学校運営協議会だより」などで、事あるごとに公の存在をアピールしてもらえるとよい。 ・ＰＴＡ役員会などでも保護者に周知していきたい。 ・「学校だより」はとてもわかりやすい内容・表現で各家庭に回覧されている。先生方の負担が増えない程度に、発行回数を減らす等、今後もお願いしたい。 ・学校運営協議会の場で挙げられた問題に対し、迅速に対応されていたのはとてもよかった。 ・学校側から地域への要望事項をもっと積極的に発信してもよいと思う。 ・職員への周知率100%はよいが、保護者への周知率65%以上は、もう少し上げる方法はないものだろうか。	・今後も「学校だより」や「学校運営協議会だよどの便りや、ＰＴＡ役員会・地区委員会の場などて、少しでも保護者の周知率がアップするように、的に発信していく。
	地域の教育力の活用 【目標】学校ボランティア活用の推進 【指標】学習支援ボランティア・読み聞かせボランティアの活用場面を昨年度より広げる。また、ボランティアの活用方法を構築する。	B	○学校からの依頼を伝える方法を確立して、地域コーディネーターと連携し、学習ボランティアを活用することができた。 ○読み聞かせボランティアについては、活用することができた。1・2年生は、ほぼ毎週行ってもらい、３・４年生は、月に１～２回は読み聞かせを行ってもらった。高学年に関しても学期に１度は読み聞かせを行ってもらった。昨年度の活用数は１年間で130回だったが、今年度は112回と減少した。ただし、毎学期に一度、図書の取り組みで水曜日にお話プレゼント（教員の読み聞かせ）を行ったことを考えると、昨年度と同等程度の活用ができていると考えられる。 ▲学習ボランティアとの都合が合わず、活用は昨年並か、それ以下となった。昨年よりも、ボランティアを活用する場面の必要性が減少した。とくに、調理実習や裁縫実習については、児童数も少ないことから、栄養教諭と担当だけでまわすことができたためと考えられる。	・学習ボランティアは学校の人手不足を補うという目的だけではなく、地域の人との関わりをもちながら、児童を育てていくという大きな役割があるので、担当教師で対応できるからという理由で減少したことは残念である。 ・学習ボランティアに登録したが、あまりお役に立てず申し訳ない。遅くとも前月に配信していただかないと予定を入れてしまい、参加したいのにできなくなってしまう。 ・例年と同じ事をしていても改善されないので新たな動きが必要かと思う。 ・「地域の皆さんの参観日」「おじいちゃんおばあちゃんの参観日」等を作り、関係住民の意識をもっと小学校に向くような工夫を期待したい。	・地域との連携を意識した取組を進める中で、ボティアの方々との連絡調整等を円滑かつ効率的に行とに課題が見られた。次年度は、実施の目的や計画確にし、事前調整が円滑に行えるように工夫してい
(7)教職員の働きやすい労働環境づくり	総勤務時間の縮減 【目標】業務の効率化 【指標】時間外労働を全員が月平均30時間以内とする。月2回の定時退校日を設置し、定時退校を行う。（定時退校率95%以上）。放課後に行い1時間以内に終了を設定した会議のうち、1時間以内に終了する会議の割合を90%以上とする。	A	○12月までの平均時間外労働時間　R5：20.3ｈ→R6：18.８ｈ（昨年度比－1.5ｈ） ○定時退校日での定時退校率　R5：99.8%→R6：95.6%（昨年度比－3.2%） ・スクールサポートスタッフの活用等を通して、本年度も時間外労働時間を減少することができた。 ・定時退校日の設定方法について検討の必要性を感じている。 ○放課後会議60分以内終了率　R5：97.68%→R6：100%（昨年度比＋2.32%） ・今後も、ICTを効果的に活用しながら効率的な会議運営を進めると共に、必要な個所についてはしっかり議論しながら、円滑で意義のある会議運営に努めていきたい。	・地域人材も含め、外部人材を活用することで、教員の負担軽減が進められている。 ・時間外労働時間の削減も大事だが、作業過多の緩和にも力を入れてみてはどうか。 ・定時退校日での退校率が下がって残念である。先生方の負担が軽くなるよう、よろしくお願いしたい。 ・スクールサポートスタッフにお願いしたい業務の聞き取りを行い、それを職員で共有し、全体効率をアップしていくとよい。 ・授業以外で時間を取られてしまっている業務の洗い出しを継続して行い、その削減に対する取組の進捗状況の確認もしていくとよい。	・業務の見直しを行うと共に、ＩＣＴ等を効果的したり、スクールサポートスタッフの活用を推進することで、今後も総勤務時間の縮減に努めていく